

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース／中
津 郁子

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

中央教育審議会答申の考え方を實現し、将来教師を目指す学生に対して、自分の専門性(臨床心理)から授業実践を考える。

①教員として子ども理解や保護者理解は重要なことである。乳幼児期からの育ちや発達を視野に入れていくことや家族関係等の多面的な視点から見えていく視点を持つことなど、臨床心理の観点からの授業を行いたい。さらに、子どもや保護者の思いや気持ちに沿うための“聴く”方法や効果的なコミュニケーションの方法など。教師として子どもや保護者を理解する視点や方法を伝えたいと考える。また、実際の具体的なケースを踏まえながら考えていけることができるようにしたい。

②講義形式の授業のみでなく、小集団での演習や話し合いを取り入れて、まずは、自分を知ることから始めるなど、主体的・積極的に授業に取り組めるようにする。

③成績評価は相対評価のみでなく、自己評価も取り入れていく。

2. 点検・評価

・年度目標に掲げていたことは、年間を通して実践できた。授業の中で毎回、振り返りシートを使って、学生の授業への取り組みの様子や、習熟度等を確認しつつ行った。

学生による授業評価では、臨床心理に関することに重点がおかれて、これまで「授業内容」の「教師の実践力の育成につながる内容であった」という項目が、やや評価が低くなるが多かった。今年度は少し改善したと思う。

さらに、努力していきたい。成績評価に関しては、オリエンテーションの時に評価方法を出来る限り明らかにすることに努め、振り返りシートにより個々の成長も評価に入れた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ・学生が主体的・積極的に授業に取り組めるように、毎年、小集団での演習や話し合いを授業に取り入れている。継続して行っていきたい。また、ケースの指導に関しては出来るだけ個別で行い、各自の課題が明確になるように指導していきたい。
- ・学生の悩み等には随時応じるとともに、自分の適性を知り将来の職業選択について考えを深めていけるようにしていきたい。
- ・学生が地域臨床の場に参加したり、将来の心理士としての経験や実践力をつけるために、様々な場の確保や提供を行っていきたい。

2. 点検・評価

- 年度目標としてあげたことは、大体実践できた。
- ・学生の悩み等には、出来るだけ早めの対応を心がけ、必要に応じてコース内や関係者との連携をとって対応した。
 - ・地域臨床にかかわる場として保育所でのプレイセラピー実習を実施し、学生の指導を行った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ・昨年に保育所への児童虐待防止に関する実態と意識の調査を実施した。その統計的な分析を行い、研究発表や学会誌への投稿をする。
 - ・臨床の基礎的な力を養うための保育所における大学院生の保育実習は、一昨年度より、保護者も含め、保育士と協働して子育て支援としての効果をねらって行っている。
- 保育士も保育実習としてのみでなく、保護者に対する効果も意識し始めている。この保育実習と子育て支援に関する研究を継続して行う。

2. 点検・評価

- ・保育所の児童虐待予防に関する調査結果は、2か所で研修会を開き調査結果の報告と研修を行った。また、次年度の学会での発表に向けて準備をしている。
さらにこの研究を生かしていくため、保育所での児童虐待予防に関してのテーマで、科研へも応募した。
- ・保育実習と子育て支援に関する研究は、今年度も継続して行った。保護者や保育園からの評価は高かったが今後も、保育園と話し合い、改善しながら実習に臨みたい。
- ・保健師さんと連携して、子ども虐待予防に関する訪問支援を実施し、1月には保健師さんたちとの研修会にて報告した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ・継続して心理・教育相談室長として、来談者にとってより良い相談室となるように、運営・改善及び大学院生の指導に努める。
- ・今年度も、予算・財務管理委員会の委員として大学運営に関わっていききたい。

2. 点検・評価

- ・心理・教育相談室室長として、相談室の運営や大学院生の指導を行った。広報活動の成果もあり、新規来談件数は前年に比較して増加した。
また、来談者に対する相談室利用に関する質問紙調査を行い結果を分析した。今後の相談室運営に生かしていく。
- ・予算・財務委員会の委員を努めた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

社会との連携について

- ・今年度も、県や市の子育て支援関係の会議等の委員をひきうけて地域社会に貢献していきたい。
- ・子育てに関する講演会や講習会等を行い、子育て家庭の支援に役立ちたい。
- ・保育所や幼稚園の子育て相談員として、親子の話を聴き、子育て支援に役立ちたい。

2. 点検・評価

- ・今年度新たに、鳴門市や阿波市の子育て会議の委員を引き受け、地域社会への貢献に努めた。
- ・保育所や幼稚園の相談員として、母親の相談等に応じた。子育て家庭への支援者対象の講習会の講師を努めた。
- ・教育支援講師・アドバイザー等派遣事業で年間で5回、幼稚園等に出向いて、保護者や保育者の話を聴いたり助言を行ったりした。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)